

令和 7 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 3 月 2 日

1. 本年度の重点目標

キラリ輝く二条 ～進んでよさを発揮し、共に高め合う学校～

2. 本年度の 経営方針

- (1) 知「学ぶ力」の育成 …… 学ぶ力育成プログラムの推進
- (2) 徳「豊かな心」の育成 …… 自他を大切にす教育の充実
- (3) 体「健やかな体」の育成 …… 健やかな体育成プログラムの推進
- (4) 社会に開かれた信頼される学校 …… 情報の発信と学級経営の充実
- (5) 職員の資質向上 …… 協働性と働き方改革の推進

分野	評価項目	自己評価		関係者評価	
		達成状況	今年度の取組と改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
豊かな心の育成	特別支援学級や関係機関、職員との連携を図り、学校体制として、個に応じた支援に努めている。	A	必要に応じて児童に関わるケース会議を開催し、個に応じた支援についてより具体的に検討することができた。専科指導による学習支援、担任交換授業、担任外や学びのサポーター、相談支援パートナーによる関わり等を通して、情報収集・共通理解を図り、今後も組織的に対応することを大切にする。	A	A
	アンケートを基にした子ども一人一人との面談、保護者との連携を図ると共に、子どものよさを的確に見取って具体的に分かりやすく褒めたり、不安や悩みに寄り添い、解決に向かえるように関わったりすることで、いじめを未然に防ぐと共に子どもの尊厳を大切にしている。毎月行われるいじめ防止対策委員会を通して、情報の共有を図ると共に組織としての対応に努める。	A	学年担任、担任外の複数の目で子どもの様子を見取り、情報を共有しながら関わることを大切にしてきた。また、いじめ防止対策委員会を定期開催し、組織として対応を検討した。児童面談、保護者との教育相談で子どものよさや今後の目標を共有することを継続し、保護者と共に子どもを支えていく学校としていく。	A	A
	道徳の継続的指導や、命の学習の推進に努めることで、豊かな心を育て、命の大切さを考えて行動できるようになっている。	B	道徳の研究授業や授業検討を行うことで、教科や特別活動と道徳学習を関連付け、日常から継続的に指導を行っていくことを目指した。全学級参観で道徳の授業公開も行った。今後も、より充実した学習を継続し豊かな心を育てていく。	B	A
学ぶ力の育成	学年研修を基に、教科が関連し合う学習機会を大切にし、子どもが問いを生み出し、学んだことをつなげたり活用したりして、思いや考えをもち、協働的に学び合う授業づくりに努めている。	A	学年研修を定期的に行い、学習内容と学校行事、児童活動、学級活動の関連付けを図り、教育活動全体を通して確かな力を育ていけるようにした。キラリ学習の内容も見直し、AAR サイクルを意識した課題探求的な学習の推進を目指した。週3回の60分授業の有効活用については、引き続き実践を重ねながら学習効果を高められるよう努めていく。	A	A
	子どもに育む資質・能力を意識し、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」3つの観点における指導と評価に努めている。	A	研究教科を国語と算数に絞り、子どもに育むべき資質・能力を明らかにしながら、6年間の系統を意識した学ぶ力の積み上げと授業技術の向上に取り組んだ。更に、指導に生きる学習評価の確立を図ることで、「指導と評価の一体化」を進めていく。	A	A

	子どもが学びに対して、「進んで」「前向きに」「あきらめないで挑戦」する姿が発揮されている。	B	今後も、家庭と連携を図りながら子ども自身が目標をもって意欲的に取り組み、自分で計画を立てて問題解決する力を身に付けられるよう支えていく。学習においても一人1台端末のより効果的な活用を継続していく。	B	A
健やかな体の育成	体育科の授業では、運動学習量を十分確保したり、教育環境の工夫を取り入れたりすることで運動が苦手な子どもも楽しく安心して運動に取り組むことができている。	A	体育科の学習では、目標をもって自ら運動に働きかける場を設定し、運動時間を確保することができた。全校ロープジャンプ大会の実施方法を工夫し、子どもたちが自治的に活動する姿を引き出すことができた。	A	A
	健康・食に対する指導を推進することで、命の大切さを考えて行動したり、よりよい食生活を身に付けようとしたりする子どもの意識が高まっている。(食育)(保健指導)	A	養護教諭による保健指導、栄養教諭による食指導、外部からの講師を招いた指導等により、専門性を生かしながら効果的に健康教育を推進できた。	A	A
	子どもが運動や健康習慣づくりに対して、「進んで」「前向きに」「あきらめないで挑戦」する姿が発揮されている。	A	水泳学習やスキー学習、タグラグビー等において外部講師を活用することで、より専門的な見地から学習内容を充実させることができた。運動経験が少ない子どもたちも、運動に対する前向きな気持ちを感じ楽しむ様子が見られた。	A	A
社会に開かれた信頼される学校	保護者、地域に、積極的に情報を発信している。	A	保護者や地域に教育活動を知っていただけるように HP の更新を継続的に行った。また、参観懇談や学年便りの内容を充実させると共に、教育活動を見ていただく機会を定期的に設けた。	A	A
	校舎内・外の環境は、子どもの安全や学習のために整備されているとともに、休み時間の職員看護、事故等の対応、災害時の対応を迅速に行うことで、子どもの安全を確保している。	A	定期的な校内外の環境整備とともに、休み時間の看護の体制を整え、怪我の初期対応、未然防止に努めることができた。今後も児童の怪我の予防の意識を高められるような学習を展開していく。	A	A
職員の資質向上	子どものよさや可能性を見付け、一人一人を生かす学級経営を行っていくために、日頃から職員同士で子ども理解を深める交流や、取組の交流に努めたことが、協働意識をもったチームづくりにつながっている。	A	学年研修や主任会など、職員が情報を共有し共に考える場を設定し、交流することができた。今後も、学年や担任外、全職員が連携して教育活動を推進していく体制を大切にしていく。	A	A
	職員が活躍し、共に高め合うことができるような教科、学級経営、働き方などの研修を行うことができている。	B	授業力向上のための研修、職員ミニ研修など、計画的に進めることができた。今後も教職員がお互いに高め合える雰囲気大切に、仕事の質を高め、働き方改革を進めていく。また、教職員が心身共に健康で明るく仕事を進めていける環境づくりに努める。	A	A
学校関係者評価による意見	<p>*重点目標や学校経営方針に基づいた、諸先生方の熱いご指導に敬意を表します。子どもたちが地域の人々に接する姿は、弛まないご指導の結果と感じます。学校と保護者が一体となっていることが根幹にあると思います。</p> <p>*週3回の60分授業を取り入れ、金曜日の放課後子どもが自由に過ごせる時間が増えたことは、成長の過程において大切なことだと思いました。「何をすすごうかな?」と、ゆっくり考える時間も大事ですし、友達と過ごす時間の中でも学びがたくさんあるのではないかと感じています。</p> <p>*文科省が示す「学校・教師が担う業務に係る3分類」を指針として、教師が教師でなければできない業務に集中できる職場環境を整え、ワーク・ライフバランスに留意しつつ、先生方が余裕をもって子どもたちに向き合えるように努めていただければと思います。</p>				